

## 体づくりの運動推進～

### 大分県中津市立小楠小学校

全校児童数	492名(男子235名 女子257名)		
全クラス数	18	教職員数	34名
体育専科教員訪問学校数			4校
訪問校	中津市立沖代小学校 中津市立和田小学校 中津市立豊田小学校 中津市立如水小学校		
体育専科教員名		寺嶋 祥吾	

#### Plan：取組時の課題と計画

##### 1 取組時の課題

- ・体力調査の「握力」「ソフトボール投げ」以外は半分以上全国平均を下回っていた。
- ・50m走では全学年全国平均を下回っていた。
- ・上体おこしでは12項目中、4項目しか平均に達していなかった。
- ・運動部やスポーツクラブに入っている児童とそうでない児童の体力格差が大きい。
- ・学年合同での体育が多く、70人～90人で授業を行うため、道具や運動場所の確保が不十分である。
- ・学年担任の中で、体育の授業をT1の教師にまかせた状態になっていた教師がいた。

##### 2 取組の計画

- ① 全学年TT指導で、その役割を明確化
- ② 校内環境整備（用具の補充、修理、練習用具の設置）
- ③ 握力アップに向けた鉄棒カードの取り組み
- ④ 授業開始前の持久走の取り組み（2～4分間走）
- ⑤ マット、跳び箱など特設期間の設置
- ⑥ 全学年の年間指導計画を作成
- ⑦ 年に2回、50m走の計測を行う。
- ⑧ 50m走の計測前にスタートダッシュの練習に取り組む。
- ⑨ 体力調査のポイント・工夫を自校のみならず市内全校に周知・徹底
- ⑩ 学習カードやふり返しカードなどの有効活用・他校への情報提供
- ⑪ T1教師を専科から担任へ移行し、単元毎に割り振る。

#### Do：実践内容

- ① TT指導の利点を生かし、習熟度別指導や全体指導と評価での役割分担を明確にした。
- ② マット期間、跳び箱期間、体力づくり期間などを設定し、十分な指導時間・運動時間を確保した。
- ③ 鉄棒カードに名人・達人の項目を位置づけ、子どもの取り組みへの意欲につなげた
- ④ 走力アップのためにも毎時間時間走をさせた。
- ⑤ 学年に応じて単元がばらばらにならないよう統一した単元構成で指導計画を組んだ。
- ⑥ 50m走の測定に1, 3学期取り組み、記録を比較させる予定。
- ⑦ 訪問校への体育の授業の指導、または体育の指導案作成に向けての指導
- ⑧ 学習カードやふり返しカードで子どもの学習への目当

て意識向上や思考・判断をさせる場面づくりに活かした。

- ⑩ T1を各学年担任で割り振ってもらい、専科がT2になって担任が授業を実施した。

#### ●工夫したこと（&苦労した点）

- ① 鉄棒の取り組みでは、名人・達人になった子どもへ認定証を渡し、さらに職員室横に「鉄棒名人・達人の木」を設置し、名前シールを貼ることで全校の児童へ可視化できるようにした。
- ② 主運動に入る前の補強運動では、その運動がどのような運動につながっていくのかを意識して取り組ませた。また、その日の授業内容に合わせて運動内容を変化させた。
- ③ 体育館で行う授業を中心にICTを活用し、お手本を動画で見せたり、指示やルールなどをスライドで示したりした。

#### Check：取組の成果

- ① 専科によるT2指導における役割が明確になり、担任の体育への関わりが向上した。
- ② 主にマット期間と跳び箱期間でiPadを有効活用することによって、意欲や技術の向上が見られた。
- ③ 体力調査の測定方法やポイントを全職員で確認・研修したことにより、正確な測定ができた。
- ④ 50m走の測定前にスタートダッシュを徹底的に練習したことで、12項目中11項目全国平均に達することができた。
- ⑤ 訪問校での単元の指導計画を共有することができ、授業に活かしてもらえた。

#### Action：今後の課題

- ① 自校における握力、ソフトボール投げの向上に努める必要がある。
- ② 自校のみならず、広い視野を持って市内全体での体力向上を目指す取り組み。
- ③ 教師集団の体育に関する基本的な構え（体育を通してどんな力をつけるのか等）に差がみられる。
- ④ 家庭との連携（気軽にできる運動の周知など）

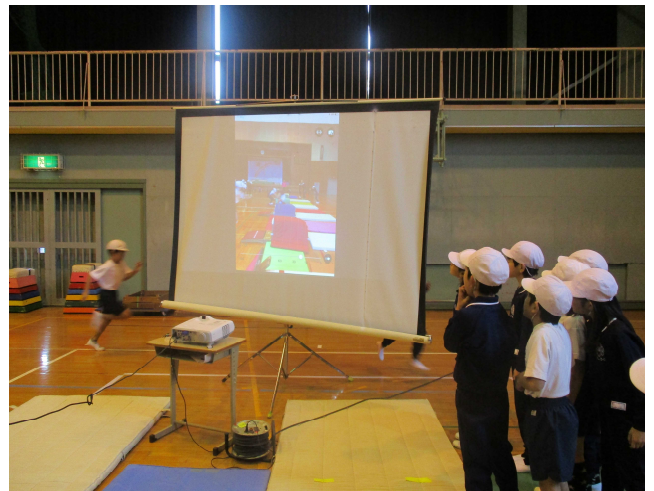
#### ◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ・児童の運動量の増加（授業、休み時間）
- ・1～6年までの系統的指導
- ・体育の指導力向上

## 単元に応じた補強運動



## ICTを用いた場面



## 鉄棒の取り組み

